

イチジク黒葉枯病の総合的防除体系

病害虫部

1 背景、目的

本県で育成しブランド化を推進しているイチジク品種「とよみつひめ」でイチジク黒葉枯病による落葉や果実腐敗などが発生し、問題となっています。



そこで、耕種的防除法と効果の高い農薬散布を組み合わせた総合的防除体系を開発しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) この総合的防除体系はイチジク黒葉枯病に効果が高く、疫病やさび病などの被害も軽減できます（表2、一部データ略）。
- 2) 枝病斑や感染を助長する枯死枝は剪定時と発芽期に切除し、トップジンMペースト等で保護します（表1）。
- 3) 本病に対して防除効果が高いアミスター10フロアブル1000倍とトップジンM水和剤1000倍を発病前の6月から収穫前の7月に3回程度散布します（表1）。

3 主要なデータなど

表1 イチジク黒葉枯病を主な対象とした総合的防除体系

月旬	耕種的防除法	薬剤防除体系		
		薬剤名	希釈倍率	防除対象病害
11月	防寒対策 ¹⁾			 <p>枝病斑</p>
～	枝病斑の切除 ²⁾ 枯死枝の切除 ²⁾			
3月	ホワイトンパウダーの塗布 ¹⁾			
4月	病斑の切除 ²⁾			
6月上旬		コサイドボルドー加用 クレフノン	1000 200	疫病
6月中旬		アミスター10フロアブル	1000	黒葉枯病・疫病
6月下旬	枯死枝の切除 ²⁾	ダコニール1000	2000	疫病
7月上旬		アミスター10フロアブル	1000	黒葉枯病・疫病
7月下旬	発病葉の摘葉	トップジンM水和剤	1000	黒葉枯病・黒かび病
8月	〃	アンビルフロアブル	1000	さび病
9月	〃			 <p>発病葉</p>
10月	〃			

注) 1. 樹勢の低下は感染・病斑の進展を助長します。

2. 枝の病斑や枯死部を切除し、トップジンMペーストや木工用ボンドを塗布します。

表2 イチジク黒葉枯病に対する総合的防除の効果 (平成22～23年)

防除方法	試験例数	病斑切除	6-7月の防除	9月の発病葉率(%) (平均±標準偏差)
総合的防除	4	有	有	4.7 ± 5.1
農薬以外の防除法のみ	1	有	無	14.0
農薬による防除のみ	5	無	有	13.7 ± 10.6
防除なし	8	無	無	35.7 ± 14.2